

Zoom Up

人

自然のメッセージを音楽に乗せて、
少しでも伝えることができたら
とてもすばらしいですね



平山 順子 さん

●ひらやま・よりこ 東京音楽大学ピアノ科・研究科卒業。昭和60年から2年間、青年海外協力隊員として中米ホンジュラス共和国で音楽を教える。その後、南米パラグアイ共和国へ約4年間の再派遣を経て、隣国アルゼンチン共和国へ留学。音楽のほか登山やスキーなど幅広い趣味を持つ。「真心を尽くす」がモットーの50歳。血液型O型のふたご座。母と夫、愛猫アンヘルくんの4人家族。盛岡市出身。松尾寄木在住。



ア

ルバと出会ったのは、南米パラグアイ共和国へ青年海外協力隊の調整員として就いた時のこと。「現地に行ったら、何か民族楽器を覚えて帰ろう」と思い、ちよつとした趣味のつもりで始めたのがきっかけだった。もともと凝り性で、何かを始めたらとことんまで突き詰めないという性格に、アルパの音色が火を付けた。

アルパは、南米の民族音楽に欠かせない弦楽器で、特にパラグアイで盛んに演奏されている。豊かな音と響きが美しく、その透명한音色に平山さんは魅了されたのだ。パラグアイでも高い人気のあるアルピスタ(アルパ奏者)、故エンリケ・サマニエゴに師事し、仕事のかわらアルパの練習に打ち込んだ。すばらしい師に巡り合い、アルパの

腕は見る見るうちに上達していったという。

アルゼンチンへの留学を経て、音楽へ立ち返ろうと決意し、平成6年に帰国。ライブレストランの専属ピアニストなど、演奏活動を開始した。

アルパは手軽に持ち運びができ、どんな場所でも演奏ができるのが特徴だ。そんな特徴を生かし、川下りをする船の中など、どこにでも出向いて演奏を行う。「気軽な雰囲気の中で、お客さんと音楽を身近に分ち合いたいんです」と笑顔を見せる。

演奏は、聞く人の時間をもたらしているものだと考える平山さん。少しでも良かったと思ってもらえるよう、常に良い演奏をすることを心掛ける。そんな心配りが、音楽に温かみを与えているのだろう。

音楽家としての顔のほか、日本山岳ガイド協会認定の登山ガイドという顔も持つ。「音楽も自然も、どちらもわたしの大事なテーマです」と語る。平山さんの考える音楽は、自然の中にあるメッセージを感じてもらうことが大きな目標なのだ。自然の声を聞き、聴衆へ届ける平山さんの音楽は、さらに美しい響きを奏でることだろう。